

# さいたま市公民館運営審議会第6回会議 議事録

## 1 開催日時

令和3年5月25日(火) 午前10時00分から11時30分まで

## 2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

## 3 出席者

〈委員：11名〉

- ① 山中 冴子 委員長
- ② 加藤 美幸 副委員長
- ③ 石田 玲子 委員
- ④ 今川 夏如 委員
- ⑤ 内河 水穂子 委員
- ⑥ 金今 義則 委員
- ⑦ 久保木 央 委員
- ⑧ 寺田 道子 委員
- ⑨ 堀杉 幸子 委員
- ⑩ 松岡 進 委員
- ⑪ 山崎 秀雄 委員

〈拠点公民館職員：6名〉

- |              |       |
|--------------|-------|
| ① 西区 指扇公民館長  | 芳賀 善久 |
| ② 北区 大砂土公民館長 | 桑原 健司 |
| ③ 大宮区 桜木公民館長 | 大嶋 真浪 |
| ④ 中央区 鈴谷公民館長 | 掛川 雅世 |
| ⑤ 浦和区 岸町公民館長 | 星野 務  |
| ⑥ 南区 文蔵公民館長  | 押田 龍彦 |

〈事務局：6名〉

生涯学習総合センター

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| ① 館長            | 吉田 治士  |
| ② 参事兼副館長        | 中村 和哉  |
| ③ 主幹兼事業・企画係長    | 有江 良修  |
| ④ 事業・企画係主任      | 曾根 啓佑  |
| ⑤ 事業・企画係社会教育指導員 | 伏見 浩美  |
| ⑥ 事業・企画係社会教育指導員 | 松本 みはる |

4 欠席者名

〈委員：1名〉

① 島田 正次 委員

〈拠点公民館長：4名〉

① 辰市 健太朗 館長 ② 内ヶ嶋 直哉 館長 ③ 春日 徹也 館長 ④ 大野 浩 館長

5 議題等

- ・ 諮問「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について」に関するまとめ案について
- ・ 第74回優良公民館表彰について

6 配布資料

- (1) さいたま市公民館運営審議会第6回会議次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第6回会議名簿
- (3) さいたま市公民館運営審議会第6回会議席次表
- (4) さいたま市公民館運営審議会第5回会議議事録（案）
- (5) さいたま市公民館運営審議会「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について」まとめ案
- (6) 平成30年度 学校卒業後の学習活動に関する障害者本人等アンケート調査結果（抜粋）

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

- ・ 「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について」まとめ案について事務局より説明をした。

松岡委員	「はじめに」のところは、国連サミット、第4次障害者基本計画、さいたま市の順に記載した方が、国連という世界レベルから日本、それからさいたま市という範囲的に広いから狭いへ、そして時系列的にもよいと思う。また、図が鮮明でなくわかりづらく、図1直前の「また、生涯学習の経験よりも今後のニーズを比較すると」という文言も、収まりが悪く感じる。さらに、6（2）表のピクトグラムの表示の概要等のところがかぎ括弧が抜けている。
山中委員長	「はじめに」のところに障害者権利条約のことを盛り込んでもよいと感じた。

曾根主任	「はじめに」のところは、いただいた意見を参考に作り直してみたいと思う。図についても、鮮明に見えるよう修正したい。図1直前の文章についても再考したいと思う。
加藤副委員長	<p>1 「障害者の生涯学習を取り巻く現状と課題」のところ、「生涯学習の経験」と「今後のニーズ」を比較しているが、比較ではなく今後のニーズの割合が高いものを取り上げた方が、後の公民館事業のあり方につながると思う。</p> <p>3 「課題の整理」では課題のみが述べられており、さいたま市の取組の成果がどこにも述べられていない。また、取り組み内容だけでなく、これまでの成果を挙げると、課題もより鮮明になると思う。</p> <p>2 (3) 「本市の事業所における取組」では、一事業所が把握している障害者のニーズであるため、「事業所における取組」が書かれているわけではない。事業所は他にもあるので、事業所の取組や成果もあった方がよい。</p> <p>最後から2行目の「1人時間の活用」はどんなことか。</p> <p>4 (2) 「公民館事業のあり方について」のところ、他の機関等との連携・協働について記述するとよい。</p> <p>6 「合理的配慮の必要性」のところは、ここまでの記述と重なる部分もあり、構成を考えると、4 「公民館事業のあり方について」などに入れてもよいのではないか。</p>
内河委員	「障害者」と「健常者」という記載が出てくるが、こうした内容を書くときには「障害のある人」「ない人」という記載が多くなっているので、検討してほしい。
松岡委員	「障害者」の記載は「障がい者」とする自治体もあるが、どうか。
内河委員	法律や公文書上は「障害者」と記載されているため、市としても「障害者」と記載している。今後も国の動向を踏まえ、適切な標記に努める。
金今委員	職員研修について、すでに頑張っている公民館職員に対して、「もっと頑張れ」と言うのではなく、他の人とつながる力を育てるような視点で語るといい。
石田委員	図1・2は色分けをして鮮明にすることも大事だが、図自体を大きくして説明を減らしてもいい。3 「課題の整理」のところ、「人材の【不在】」ではなく「人材の【不足】」の方がよい。
今川委員	職員研修はこれまでも行ってきたはずで、それで解決できていないからこそその課題なのではないか。障害者については、地域の支えを受けることが大事だと思うが、障害者が公民館にアクセスする事例自体が少なく、公民館側で利用を断る事例もあると聞いている。こうした中で、公民館として障害者や地域との連携を図ることができるような記述が必要だと思う。
久保木委員	障害者を受け入れる地域社会に、偏見や差別が残っていると感じるので、人権教育などによる障害者理解講座が必要である。学校教育だけでなく、成人を対象とした講座を充実させた方がよい。
山崎委員	職員の力の向上というテーマは、これまでの答申の中でも度々話題となったが、過大な書き方をすると職員が担いきれなくなってしまう。
寺田委員	図1の下で、生涯学習を「行った」という言葉に違和感がある。

山中委員長	<p>合理的配慮は、相手方の申し出に対して検討するもので、事前に整えるということが可能なのか疑問がある。施設整備も、内容自体は重要だが、合理的配慮というより基礎的環境整備の話ではないかとも思う。</p> <p>連携の必要性や施設に関する話を「おわりに」でまとめてもいいと思う。記載することで、事例が蓄積される。</p> <p>1「障害者の生涯学習を取り巻く現状と課題」と2「本市の動向とその取組」、4「公民館事業のあり方について」と5「障害者の生涯学習を推進するためには」のつながりがよくないように感じる。1で国の調査結果を挙げるなら、その中で注目すべき点を指摘し、2の市の動向につなげた方がわかりやすい。4と5も、語っている内容が直結していないので、例えば4を補強する5、といった関係が見える書き方にした方がいい。</p>
-------	--

11 その他

第74回優良公民館表彰について説明をした。

12 閉会